

第8回福島市待機児童対策推進会議 議事録

- 1 日 時 令和2年11月20日(金) 14:30~15:30
- 2 場 所 福島市役所4階 庁議室
- 3 出席者 木幡 浩会長、山崎 麻弥子委員、栗花 澄子委員、大内 美紀委員、
菊田 由香委員、渡邊 由紀委員、細谷 實委員、吉田 務委員、
狩野 奈緒子委員、横田 智史委員、立花 由里子委員、高岡 寿哉委員
- 4 内 容
(1) 開会
(2) 挨拶
(3) 議事
(4) その他
(5) 閉会
- 5 概要
(1) 議事
【令和2年10月1日現在の待機児童数(速報値)について】
【令和2年度待機児童対策推進パッケージの主な実績について】
【令和3年4月1日の待機児童解消に向けた取り組みについて】
【令和3年度待機児童対策推進パッケージ(案)について】
事務局説明後、質疑応答、意見交換
- 6 委員の主な発言
○委員 ①令和3年4月に新設予定の施設はあるのか。新設予定がないとすれば、今後、コロナ禍で保育施設の利用を控えていた人たちの保育ニーズが掘り起こされることで見込まれる申込者数の増加については、どのように対応するのか。
②スライド18の保育施設トップセミナーが今年度開催されるということだが、いつ、どのように開催するのか伺いたい。
③スライド22の保育士の確保については、保育士の離職防止のため、勤続年数に応じた表彰制度など、個人が喜ぶような取り組みを行ってみても面白い。また、施設に対しては職員の離職率の改善などを基準に表彰を行ってもよいのではないか。
④コロナ禍でオンライン保育を追求している保育事業者もある。今後ますますテレワークが進むと思うので、新しい保育モデルとして、オンライン保育を試行的に実施していくのもいいのではないか。
○事務局 ①施設整備については、スライド15で示しているが、施設の新設を予定し

ているものではない。保育施設の定員拡大については、既存施設の改修等に対応するなど、幅広く検討を行い、その財源についても国庫補助などの活用を考えていきたい。

②保育施設のトップセミナーについては、来年2月に実施を予定している。企画内容は調整中なので、内容が固まり次第、ご案内させていただきたい。

③保育士や保育施設等の表彰制度を設けることについては、各保育施設等が行っている取組状況や離職の状況等を踏まえながら研究したい。

④オンライン保育については、マスクを着用しながらの保育が子どもたちの成長にはいかなものかという声をいただいているところであり、そういった声も踏まえて研究させていただきたい。

○会長 保育の表彰制度等というのは業界団体が行っていることが多いと思うが、保育関係ではそういった取組みはないのか。

○委員 幼稚園ではある。

○会長 民間で行っている取組みが既にあるならば、基本的に民間主導で取組みを行うのがよいのではないか。

○委員 ①スライド18の地域型保育事業（小規模保育事業）連携施設設定推進事業は大切な取り組みである。「子ども・子育て新ステージプラン」で、福島市は日本一の子育て環境づくりを目指すと謳っているので、市が仲立ちして、幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育施設の協議を進める必要がある。

②見出しが「保育士」と記載されている事業でも、説明文には「保育士等」と記載されていたり、対象が不明瞭である。日本一の子育て環境を目指すなら、幼稚園には幼稚園教諭、認定こども園には保育教諭、保育所には保育士とそれぞれおり、一体的に考える必要がある。また、スライド9の宿舍借り上げ支援事業などは、幼稚園教諭にもぜひ拡充していただきたい。

③学生向けに幼稚園教諭の就職相談会を開催した際、学生のほうから保育士の就職相談は行っていないのかと尋ねられたこともあり、保育士の就職相談会と合わせて官民一体で就職相談会を行うことはできないか。

○事務局 ①地域型保育事業は、3歳未満のお子様を受け入れる施設なので、卒園後の受け皿については積極的に考えていきたい。連携施設の設定については市が主体的に各施設との協議の場を設けさせていただきたいと思うので、協力をお願いしたい。

②保育士の確保という見出しについては配慮が足りず申し訳ない。事業にもよるが、幼稚園教諭、保育教諭も含まれている事業もある。今後の資料作成については注意してまいりたい。

③就職相談会については、現在、公立保育施設・私立保育施設合同で開催させていただいているところだが、次年度以降はどのような形での開催が望ましいのか検討させていただきたい。

○会長 幼稚園教諭、保育教諭、保育士の名称については、統一の流れがあればいいと思う。教育・保育は一体として運営していかなければということで、担当課名を今のようにした。まだ昔の名残があるかもしれないが、今後は一体的に取

り組んでいきたいと思う。

○委員 ①保育士確保で大事なものは数だけではない。質の良い先生に来てほしいので保育士の研修等も充実していただきたいと思う。

②幼稚園送迎ステーション事業について具体的にお伺いしたい。

○事務局 ②現在、市内のすべての私立幼稚園に預かり保育を実施していただいているところではあるが、預かり保育を行っている時間帯は各園で異なっている。このため、保護者が就労している世帯では、幼稚園の利用を希望しても預かり保育の開始時刻や終了時刻に合わせた送迎が難しい。

そこで、幼稚園の開園前後の時間帯で子どもを一時的に預かる「送迎ステーション」を設置し、保護者が就労している世帯でも幼稚園の利用が可能となるような事業を検討している。

○会長 ①保育士の質という観点では、既に保育士として従事されている人の質を上げていくというのは重要であると思うが、一方で、保育のように専門性が高い職種では、市外から優秀な人材が集まるようになることも重要である。福島市の特色のある保育に魅力を感じて、あの施設で働きたいという思いでやって来る人もいると思う。最近は公立保育士の採用でも、そういう観点で応募してくる人がいる。先進的な取組みやブランドが、質の高い保育士を増やす。また、今年から特色ある幼児教育・保育プロジェクトを実施しており、各園で様々な取組みを実施していただいているところだが、日本一の子育て環境づくりのために、そういった質や多様性を重視したい。

○委員 市ではYoutubeで保育士募集動画を公開し、PR活動もやっているが、県の私立幼稚園・認定こども園でもショートムービーを作成している。

○会長 専門職の魅力をPRするというのは大事なことだと思う。

○委員 ①AIの導入で希望する保育施設を6か所選択できるようになったが、兄弟姉妹で異なる施設に入所が決まり、辞退となる事例も目立ってきている。この点は、市と施設間の情報共有や話し合いで解消できることもあるのではないかと。兄弟姉妹が別施設に入所することの解消も待機児童の解消につながるのではないかと。

②特色ある教育・保育についても、大変勉強になったので、現に取り組んでいる園だけでなく、市の保育施設全体に取組みの内容が共有され、刺激となっていけばいいと思う。

③コロナ禍の中で様々な補助をつけていただいて感謝している。午睡管理システムもありがたいが、施設の事務量が増えており、もう少し事務手続きの簡素化も考えていただければ、保育士が子どもたちに向き合う時間を増やせる。各施設でICTの活用方法がもっと分かってくると、保育士の負担も軽減されるので、市として先導して考えていただきたい。

○事務局 ①提言いただいたことを踏まえながら、保護者への情報提供なども工夫していきたい。

②今年度から特色ある幼児教育・保育プロジェクトを実施してきたが、事業の成果については、各施設に共有できる機会を設けたいと考えており、また取

組内容については、市外に向けても発信することを考えている。

③幼児教育・保育の無償化が昨年10月に実施されて以降、施設における事務負担が増大していることは承知している。国へ負担軽減措置について支援を求めているところであり、私どもとしてもICTの活用により更なる負担軽減が図られるよう検討していきたいと考えている。

また、ICTのさらなる活用については、公立施設で登降園の管理システム、午睡チェックのシステム等を導入したところであるが、その取り組みの結果を踏まえて、公立施設の取り組み状況の紹介などしながら、更なる活用に向けて考えていきたい。

○会長 ICTの活用については、これまで福島という地域では、慣れていなかった分野だと思う。タブレットの導入も事務方に強く指示して、今年度思い切って実施した。ICTの様々な活用については皆様のお知恵も借りてやっていきたい。また、負担軽減を考えると時には、どれが無駄か考えるのが大事である。職員も不要なものは不要であると思うことに慣れていかないといけない。皆様も負担を感じていることについては、声をお寄せいただきたい。

○委員 福島市の場合、夕方に預かる子どもの人数が0人でも保育士を最低1名配置することが必要となっているが、宮城県であれば子どもが0人であれば園を閉めてもよいとしている。連絡が取れるようになるなどの理由というが、保育園はサービス業化しすぎている。預かる子どもがいないのに保育士が配置されなくてはいけないというのは改善した方がよい。

○会長 その指摘はまた今後検討していく。

○委員 ①養成校の状況をお話しすると、今年はコロナ禍で実習の予定などが狂い、就職活動が遅れている。

②就職活動をする学生には、よく「保育施設のどこを見たらよいのか」と聞かれる。以前、東京の保育所に就職が決まった学生がいたが、その学生にどうしてそこを選んだのか尋ねたところ、その園で行っている保育に魅力を感じたということだった。先ほど、幼稚園教諭のPR動画を作成したということだったが、福島市の各園が行っている保育についても、その特色や実際の姿を、動画やSNSを活用して、保育士を目指す学生に届くよう情報発信してもらいたい。

○事務局 ①就職活動についての取り組みとしては、令和3年1月上旬に就職相談会を開催する予定である。保育士を目指す学生の皆様には奮って参加いただきたい。また、今年度は学校のもとに出向かせていただき、学生の皆様に説明をする機会をいただいております、学生の皆様へぜひご案内をお願いしたい。

②特色ある教育・保育を実施している施設の紹介ということだが、今回、市のホームページに各保育施設を紹介できるページを設けたところである。今後は市のホームページから各施設のホームページや、私立幼稚園・認定こども園が作成したPR動画へのリンクも考えていきたい。

○会長 保育士養成校の実習の受入れについては、コロナ禍ではあるが、最終的に資格を取得することができないことにつながりかねないので、一定のリスク管理をしながら、実習の受入れを行っていただきたい。

- 委員 待機児童数 42 名については公立・私立を希望している子どもの総数なのか。この中に認可外保育施設を希望はしているが料金が見合わない等の理由で入所していない子どもが含まれるのか。
- 会長 認可外保育施設を希望する子どもは除かれている。
- 委員 ①この会議の中で、認可外保育施設の位置づけがどの資料を見ても書かれていないが、市として認可外保育施設の位置づけをどう考えているのかを教えてください。
- ②スライド 18 の地域型保育事業連携施設設定推進事業だが、認可外保育施設でも 2 歳までのお子さんをお預かりしている施設がある。子どもが 3 歳を迎え、新たな預け先を検討する際に、施設間で連携しているところがあまりなく、幼稚園や認可保育施設については自分たち職員もよく分かっていないことがあるので、市には認可外保育施設も含めて転所の促進に関する支援を進めていただきたい。
- 事務局 ①認可外保育施設も福島市の重要な保育施設と認識しており、その認識のもと、運営費補助の仕組みも設けている。
- ②スライド 21 の保育アテンダント事業で、認可外保育施設を含めて、保育施設への入所を希望する保護者への案内を充実させていきたい。
- 会長 スライド 6 で、0 歳児の申し込みが今年は昨年同時期と比べ 60 人くらい減っている。1 歳児も減少している。新型コロナウイルスの影響で子どもの出生数が減ったという新聞報道等もあるが、福島市ではそこまで減っていないので、職場復帰を遅らせて、今は家庭で保育していることが考えられる。したがって、幼児教育・保育の無償化と相まって、今後はさらに保育ニーズが掘り起こされるということが考えられる。
- また、今年度は施設整備を行わなかったが、さまざまな取り組みにより、来年 4 月こそは待機児童数ゼロを実現したい。そのためには皆様のような関係者の方々の協力は欠かせないので、ぜひ協力をお願いしたい。